

イタリア政局：五つ星運動と北部同盟の共闘は？

発表日：2018年3月26日（月）

～議長選出で両党が接近～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

◇ 新議会が召集されたイタリアでは、政権発足を目指す五つ星運動と右派会派の両陣営が協力することで、上下院議長のポストを分け合った。投票直前に右派会派内の意見不一致が表面化した、ひとまず右派は団結を維持。五つ星運動と右派第1党の北部同盟は政策方針や支持基盤の相違が目立ち、政権発足で協力するハードルは高い。ただ、議長選出で右派会派が早くも亀裂を露呈し、北部同盟と五つ星運動が関係改善を図っていることから、両党の共闘の可能性も完全には排除できない。

23日に新議会が召集されたイタリアでは翌24日、政権発足を目指す五つ星運動と右派会派の両陣営が協力することで、上院議長に右派会派の一角を占めるフォルツァ・イタリアのカセラッティ上院議員を、下院議長に五つ星運動のフィコ下院議員をそれぞれ選出した。右派会派の上院議長候補には当初、同じフォルツァ・イタリアのロマーニ上院議員の名前が浮上していたが、公費の不正利用で有罪判決を受けた同氏を支持することに五つ星運動が難色を示していた（同党は有罪判決を受けた人物が議員になることを否定）。4日の総選挙で右派会派内の最大勢力となった北部同盟を率いるサルヴィーニ党首は、投票を前に五つ星運動に同調し、フォルツァ・イタリアの別の議員を議長候補として支持することを表明していた。こうした北部同盟の独断専行に、ベルルスコーニ元首相が率いるフォルツァ・イタリアが猛反発。右派会派内に早くも亀裂が生じる不安が広がったが、最終的には五つ星運動が許容可能なカセラッティ議員を上院議長に指名することで一致した。

議長選出には政権発足時と同様に上下両院の過半数の支持が必要となる。そのため、今回の議長選出は今後の政権発足に向けた党会派間の協力の行方を占ううえで注目されていた。五つ星運動と右派会派の間には政策方針・政治信条・支持基盤などで相違が目立ち、議長職を分け合ったからと言って、直ちに両勢力が政権発足に協力する訳ではなさそうだ。右派会派がどうにか共同歩調を維持したことで、北部同盟が右派会派から袂を分かち、五つ星運動の政権発足に協力するシナリオもひとまず回避された。

五つ星運動と北部同盟の単独政党としての獲得議席の差は歴然で、五つ星運動が主導する政権に加わることで北部同盟が手に入れられるのは、幾つかの閣僚ポストと難民対応強化など一部の政策実現にとどまろう。両党が選挙公約で掲げた政策は、柔軟な財政運営、EUの財政ルールの見直し、年金改革の撤回など一致するメニューも少なくない。ただ、五つ星運動が相対的に貧しい南部地域で支持を得ているのに対し、北部同盟は豊かな北部地域を地盤としている。こうした支持基盤を反映し、五つ星運動が最低所得保障制度の導入や低所得者・中小企業向け減税などの所得再分配を重視する一方、北部同盟は富裕層優遇につながる個人・企業向けのフラット税導入を主張する。両党の主張を共通に満たすには大幅な財政拡張以外はなく、実現へのハードルは高い。

北部同盟としてはまずは新たに手に入れた右派会派のリーダーとしての地位を守り、右派政権発足に向けたチャンスを窺う意向とみられる。上院議長の座をフォルツァ・イタリアに譲ったのも、北部同盟から右派会派の統一首相候補を擁立することや、今後の地方選での協力を見込んでのことだろう。単独政党として議会内で最大勢力となった五つ星運動と、会派として最大勢力となった右派会派は、何れも自らが政権を率いることを主張している。議長選出を終えたことで慣例通り、民主党のジェンティローニ首相は正式に辞任した（次期首相が任命されるまでは暫定首相として留まる）。首相の任命権を持つマッタレラ大統領は、近く政権発足に向けて首相候補に組閣を要請することが予想される。五つ星運動と右派会派のどちらに組閣を要請するかは大統領の判断に委ねられるが、何れの場合もこの段階で政権発足に必要な過半数の支持が得られる可能性は低い。五つ星運動（或いは右派会派）の政権発足協議が暗礁に乗り上げた段階で、右派会派（或いは五つ星運動）が組閣の要請を受け、これも不調に終わった段階で改めて政権発足に向けた様々な選択肢が模索されることになろう。その過程では、五つ星運動のディ・マイオ党首や北部同盟のサルヴィーニ党首に代わる新たな首相候補が浮上したり、右派会派・民主党・五つ星運動の分裂や中道勢力との合流、再選挙（ちなみに、五つ星運動と北部同盟の両党は総選挙後の各種世論調査で一段と支持を伸ばしている）など、様々なシナリオが想定される。政権発足に向けた協議は長期難航が予想されるが、今回の議長選出で右派会派が早くも亀裂を露呈し、北部同盟が五つ星運動との関係改善を図っていることから、両党の政権発足での協力の可能性も完全には排除できない。

以上